

北海道高等学校教育研究大会 第62回大会案内

研究主題	北海道の新たな時代を拓く高等学校教育の創造
大会期日	令和7年(2025年)1月8日(水)、9日(木)
主催	北海道高等学校教育研究会
後援	北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道高等学校長協会 北海道私立中学高等学校協会 公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部

《第1日目》 全体集会 令和7年(2025年)年1月8日(水)

場所	カナモトホール(札幌市民ホール) 札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市営地下鉄「大通駅」下車5分		
日程	12:00 ~ 13:00	受付	
	13:00 ~ 13:40	開会式	
	13:40 ~ 15:40	全体講演	

講演

演題 「データは大切、そしてデータを疑うことはもっと大切」
: 総合知の視点から考える」

講師 小林 傳 司 氏

大阪大学名誉教授、大阪大学COデザイン・センター特任教授
JST社会技術研究開発センター長、日本学術会議アドバイザー
1954年京都市生まれ。78年京都大学理学部卒業、83年東京大学
大学院理学系研究科博士課程修了。

1954年京都市生まれ。78年京都大学理学部卒業。83年、東京大大学院理学系研究
科博士課程修了。専門は科学哲学、科学技術社会論。福岡教育大学、南山大学を
経て、2005年4月より大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。2015年
から19年、理事・副学長を経て2020年退職。

社会における科学技術のあり方について、専門家と市民が同じテーブルで理解を深め提言する「コンセンサス会
議」を日本に紹介、実施。01年、科学技術社会論学会の設立にかかわる(初代会長)。著書に「公共のための科学技
術」(編著)玉川大学出版会、「誰が科学技術について考えるのか」名古屋大学出版会、「トランスサイエンスの時
代」NTT出版など。



運営 大会役員

司会者 石狩支部

《第2日目》 教科別集会 令和7年(2025年)1月9日(木)

部会	主 題	30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	30			
国語	これからの時代に求められる資質・能力を育む国語教育 ～ことばでつなぐ探究的な授業づくり～	設 営	30	10:10	講演 文芸評論家 三宅 香帆 氏	11:45	30	12:45	研究発表	15:15	30			
地歴公民	「社会的な見方・考え方」を育てるICTを効果的に活用した授業の在り方	受 付	各研究会紹介	開会式・総会	休 憩	講演 (世界史)講演 北海道博物館 生活文化研究グループ 学芸主幹 会田 理人 氏 (日本史)講演 北海道大学 教授 北原 モコトウナシ 氏 (地理)講演 独立行政法人 国際協力機構 北海道(札幌)センター 市民参加協力課 桐山 あす美 氏 (倫理・公共・政治経済)講演 日本大学理工学部一般教育教室 教授 勢力 尚雅 氏	昼 食	研究発表・協議	閉 会 式					
数学	数学的活動を充実させ、 数学的に考える資質・能力を育成する数学教育	準 備	受 付	総 開 会 式	講演 立命館宇治中学校・高等学校 教諭 酒井 淳平 氏	休 憩	研究発表 研究競技	講 評	閉 会 式					
理科	自然科学に関わろうとする主体性を育成するための理科教育 実験実習を核とした探究活動の指導法の研究・実践 生徒の学びを深める学習評価の開発・実践	受 付	開 会 式	総 会	医療分野研究(言語聴覚師) 講演準備	全体講演 東京大学 工学系研究科 応用化学専攻 教授 西林 仁昭 氏	昼 休 憩	(物理)講演 北海道大学大学院 工学研究院応用物理学部門 教授 市村 晃一 氏 (化学) 研究発表 研究協議 (生物)講演 北海道大学大学院薬学研究院創薬 化学専攻 衛生化学研究室 教授 松田 正氏 氏 (地学)講演 北海道教育大学旭川校理科 教育専攻 准教授 佐藤 鋭一 氏 (理科総合)講演 京都大学大学院 教育学研究科 准教授 石井 英真 氏	研究発表 (分科会ごと)	分科会ごと開会式				
保健体育	生徒自ら課題発見・解決を目指した保健体育授業 ～豊かなスポーツライフの継続を目指して～	受 付	開 会 式	講演 株式会社シェアスタッフ スポーツキャスター 大森 健作 氏	11:40	休 憩	研究発表	研究協議	道教委 インフォメーション 講師・助言	閉 会 式				
養護	現代的な健康課題の解決に向けた学校保健活動の推進をめざして	9:20	9:40	9:50	11:10	11:50	12:10	講演 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 氏	14:50	閉 会 式				
芸術	豊かな心や創造性を涵養する芸術教育	受 付	開 会 式	講演 一般財団法人 縄文芸術文化財団 業務執行代行理事 茂呂 剛伸 氏	10:20	10:35	昼 食	分科会Ⅰ(研究発表)13:00～14:00 分科会Ⅱ(研究協議)14:10～15:10	15:10	15:20	60	15:55		
英語	21世紀に生きる地球市民を育む英語教育 ～新しい流れに対応する授業をめざして～ English Education in the 21st Century-Fostering Global Citizenship ～ In Pursuit of New Wave of English Teaching ～	受 付	開 会 式	講演 武蔵野大学 大学特任教授 江原 文明 氏	10:20	11:50	昼 食	研究発表Ⅰ・Ⅱ	14:25	14:40	休 憩	シンポジウム	閉 会 式	
家庭	生涯を見通してよりよい生活を創造する力を育む家庭科教育	9:20	9:40	10:10	講演 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 参事官(高等学校担当) 付産業教育振興室 教科調査官 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 田邊 暁子 氏	11:40	連 結	昼 食・休 憩	研究発表・研究協議	講 評	閉 会 式			
農業	持続可能な農業生産・社会形成に対応した農業教育の推進 生産力向上・DX化の進展に寄与する地域産業人育成につながる学校農場づくり	受 付	開 会 式	講演 エア・ウォーター北海道株式会社 代表取締役社長 庫元 達也 氏	10:10	11:40	昼 食	研究協議 (研究発表・報告)及び助言	閉 会 式	15:20				
工業	社会の発展に貢献する工業教育の創造と実践	受 付	開 会 式	講演 北海道大学 大学院 教授 川村 秀憲 氏	10:10	11:40	昼 食	ICT研修	14:45	研究発表 研究協議	閉 会 式	15:45	16:00	
商業	未来を拓く有為な人材を育成するビジネス教育	設 営	受 付	開 会 式	講演 株式会社コエルワ 共同代表COO 嶋本 勇介 氏	10:10	11:40	昼 食	研究発表①	13:40	研究発表②	14:20	研究協議	閉 会 式
水産	変化の激しい時代をきり拓く水産・海洋教育はいかにあるべきか	事前打ち合わせ	受 付	開 会 式	講演 株式会社渋谷潜水工業 代表取締役社長 渋谷 正信 氏	11:40	休 憩	研究発表 研究協議	研修 報告	講 評	部 会 総 会	閉 会 式		
情報	形成的評価を活用して知識を深めて思考力を鍛える	受 付	開 会 式	ワークショップ	企業展示 昼 食	講演 国立大学法人 電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授 中山 泰一 氏	総 会	閉 会 式						

教科別集会開催方法 (現時点での情報であり、変更になることが考えられます。最新情報は高教研ホームページをご確認ください。)

部会	会場名	所在地	交通機関	配信の予定
国語	北海商科大学2号館 多目的ホール	札幌市豊平区豊平6条6丁目1-10	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄東豊線「学園前駅」(4番出口)直結 じょうてつバス「環56」「学園前駅」下車すぐ 地下鉄東西線「菊水駅」(6番出口)徒歩12分 地下鉄南北線「中島公園駅」(1番出口)徒歩15分 地下鉄南北線「平岸駅」(1番出口)徒歩15分 	なし オンデマンドは一部実施
地歴 公民	北海道有朋高等学校	札幌市北区屯田9条7丁目	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄南北線麻生駅より中央バス [麻17]系統「石狩庁舎前」行き約17分「有朋高校」下車 徒歩約3分 [麻07]系統「屯田6条12丁目」行き約16分 「有朋高校」下車徒歩約3分 [麻08]系統「石狩庁舎前」行き約14分 「屯田9条3丁目」下車徒歩約11分 [麻01]系統「屯田6条12丁目」行き約10分 「屯田小学校」下車徒歩約13分 地下鉄栄町駅より中央バス [栄19]系統「石狩庁舎前」行き約9分「屯田小学校」下車 徒歩約13分 	なし
数学	札幌エルプラザ	札幌市北区北8条西3丁目	<ul style="list-style-type: none"> JR「札幌駅」(北口)から徒歩約3分 地下鉄東西線、南北線、東豊線「さっぽろ駅」から地下歩道 (12番出口)を出て徒歩約3分 地下鉄南北線「北12条駅」から徒歩約6分 	なし
理科	学校法人西野学園 札幌医学技術 福祉歯科専門学校	札幌市中央区南5条西11丁目1289-5	地下鉄東西線「西11丁目駅」(2番出口)より徒歩7分	なし
保健 体育	道立総合体育センター (きたえーる)	札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1	地下鉄東豊線「豊平公園駅」下車	なし
養護	かでの2.7 北海道立道民 活動センター	札幌市中央区北2条西7丁目	<ul style="list-style-type: none"> JR「札幌駅」(南口)徒歩13分 地下鉄「さっぽろ駅」(10番出口)徒歩9分 地下鉄「大通駅」(2番出口)徒歩11分 地下鉄「西11丁目駅」(4番出口)徒歩11分 公共地下歩道 (地下歩行空間から北1条地下駐車場連絡口経由1番出口) 徒歩4分 	なし
芸術	札幌大谷大学	札幌市東区北16条東9丁目1番1号	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄東豊線「東区役所前」下車(2・3番出口)徒歩7分 地下鉄東豊線「環状通東」下車(1番出口)徒歩7分 中央バス「東17」北光線「大谷学園前」下車徒歩5分 中央バス「東19」北光・北口線「大谷学園前」下車徒歩5分 	なし
英語	北星学園大学	札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1	市営地下鉄東西線「大谷地駅」下車 徒歩約5分	なし
家庭	札幌エルプラザ	札幌市北区北8条西3丁目	JR「札幌駅」(北口)より徒歩3分 (札幌駅北口地下歩道12番出口横建物の中まで直通)	なし
農業	エア・ウォーターの森	札幌市中央区北8条西13丁目28-21	JR「桑園駅」より徒歩8分程度 イオン札幌桑園ショッピングセンターそば	なし
工業	北海道札幌琴似 工業高等学校	札幌市西区発寒13条西11丁目3-1	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄「宮の沢駅」徒歩1.9km約25分 地下鉄「宮の沢駅」徒歩300m「宮の沢バスターミナル」 [JRバスor中央バス]「琴似工業高校前」乗車約7分 JR「発寒駅」徒歩1.5km約20分 JR「発寒中央駅」徒歩1.8km約25分 JR「発寒中央駅」「発寒中央駅停留所」JRバス「52」 「琴似工業高校前停留所」(乗車約8分) 	なし
商業	北海道大学 地球環境科学研究所	札幌市北区北10条西5丁目	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄南北線「北12条駅」より徒歩7分 JR「札幌駅」(北口)より徒歩12分 	オンライン配信あり
水産	北海道小樽水産 高等学校	小樽市若竹町9番1号	<ul style="list-style-type: none"> JR「小樽港駅」下車徒歩5分 JR「小樽駅」中央バス(桜町、新光町行き)乗車、 「小樽港駅」下車徒歩5分 	なし
情報	北海道札幌北 高等学校	札幌市北区北25条西11丁目	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄南北線「北24条駅」(1番出口)から徒歩約13分 JR学園都市線「新川駅」出口から徒歩約15分 	ZOOMでの オンライン配信あり

※各会場ともに冬期は特に駐車場はありませんので、自家用車をご遠慮ください。

※会場への交通機関は高教研公式サイト各教科ホームページをご覧ください。



◎大会参加申込

申込方法 大会参加を希望する方は、学校長または所属長を通じ、各学校または所属機関ごとに、直接本部事務局までお申し込みください。

なお、参加申込要領は北海道高等学校教育研究会のホームページでご確認ください。

申込期間 参加申込の受付期間は、11月15日（金）から12月2日（月）までとなっています。
この期間を過ぎたら、当日会場に設けた「当日参加受付」で参加手続きを行ってください。

参加料 会員の方は、2000円、非会員の方は、3500円となります。参加申込要領に従って、各学校、または、所属機関ごとにお支払ください。

高等学校教員の方は2日間のいずれかしか参加できない場合でも参加料は同じです。一般参加の対象となりません。

一般の方の参加料は、1日目の全体集会在1000円、2日目の教科別集会在1500円となります。

なお、一般の方への会報と研究紀要のお届けはありませんので、ご了承ください。

大会参加証 「参加証」は、12月中旬までに、学校長または所属長あてにお送りしますので、お受け取りください。
この参加証は、研究大会1日目の全体集会の受付で、「大会要項」と引き換えになりますので、大切に保管してください。

また、リモートで開催する教科別集会の視聴に必要な事項が記載されています。

教科別集会の会場へもご持参ください。

【お願い】 参加申込や参加料の納入が遅れると、参加証の発送作業が遅れます。早めの手続、ご協力をお願いします。

◎大会受付

受付要領 参加証のうち「全体集会：参加証（兼大会要項引換券）」を切り取って全体集会の受付に提出し、「大会要項」をお受け取りください。

参加証には、あらかじめ「氏名」、「学校名」を記入のうえ、全体集会の受付に提出し、「大会要項」をお受け取りください。

事務局より

現在大学生の教員希望や教員採用試験の受験者数の減少が世間で話題になっていることはとても残念でなりません。その背景には単に世の変化というだけでなく職業観や労働観の変容も大きいことに要因があることも考えられます。してみると私たち教育現場も世の中の変化に応じて「一定の変化」をする必要があるという課題に直面します。

しかし、だからといって現場を「変えるために変える」という対応ばかり続けることは児童生徒そして教職員にとつての「幸福」に果たしてなり得るでしょうか。「不易流行」の「不易」に無批判に固執し続けることは思考停止だとしても、むやみに「流行」に飛びつくことで見失うことがあるとすれば、その「見失ってはいけない何か」を見極めるため絶えず深い思考を続ける必要がある気がしてなりません。

今年度上半期に放送されたNHK連続テレビ小説「虎に翼」では、日本国憲法第14条が一貫したテーマでした。14条に加えてドラマの終盤で登場人物の弁護士が法令の違憲を求める最高裁判所での弁論にて、憲法第13条「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」を訴える場面には心が揺さぶられました。

教育における不易とは憲法14条では「公共の福祉」にあたり、流行とは「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の正しい理解と時代によるアップデートであるとも考えられます。そのためには子供だけでなく大人も世の疑問に「はて？」と声に出すことと、とりわけ大人はその声に耳を傾けることから正しい不易流行の理解が始まる気がしてなりません。

高教研がそんな「アップデートの場」になることを目指しながら、事務局では目下準備を進めております。1月8日、みなさまにお会いして一緒に学ぶ時間を楽しみにしております。

高教研本部事務局

〒064-8535 札幌市中央区旭ヶ丘6丁目5-18 市立札幌旭ヶ丘高等学校内

Tel 011-513-2238 Fax 011-513-2244

e-mail d-kokyoken@sapporo-c.ed.jp